

飛鳥宮跡周辺地区まちづくり基本構想

平成29年6月

目次

1. 構想策定の背景と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 明日香村の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 飛鳥宮跡周辺地区の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
4. 飛鳥宮跡周辺地区の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
5. 地区の現状と課題を踏まえた飛鳥宮跡周辺地区のまちづくり基本方針・・・・ 20
6. 飛鳥宮跡周辺地区まちづくりイメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
7. 飛鳥宮跡周辺地区まちづくりでおこなう事業（案）・・・・・・・・・・・・ 22
8. 飛鳥宮跡周辺地区まちづくり構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

1. 構想策定の背景と目的

1400年前、我が国初の都が築かれた明日香村には、我が国が律令国家としての体制を整えていった歴史を解明する上で欠くことのできない貴重な文化財が数多く分布している。これらの文化財を守り伝えるため、これまで発掘調査や文化財の指定、さらには「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」や「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」などにより歴史的風土の保存を進めてきた。

一方、観光の側面では、観光客の停滞・伸び悩みという課題もみられる。その背景には、古代の遺跡という大きなインパクトがあるなかで、その魅力的な文化財が、十分に活かされていないことがあげられる。

さらに、明日香村の歴史文化の保存を担うことが期待される若者・子どもが減少している。近年、全国的に少子高齢化が進むなかで、明日香村ではその傾向が極めて顕著にみられる。理由の一つは、規制により、居住するための空間が少ないこと、また、生活をしていくための生業となる産業が村内で発展していないことがあげられる。このことは、各大字で受け継がれてきた祭りや行事が継続困難となったり、歴史的な風情を醸し出す建物が空き家となったり、世界に誇る貴重な文化財と一体となってその魅力を高める山林や農地が荒廃してしまったりという形で顕在化してきている。

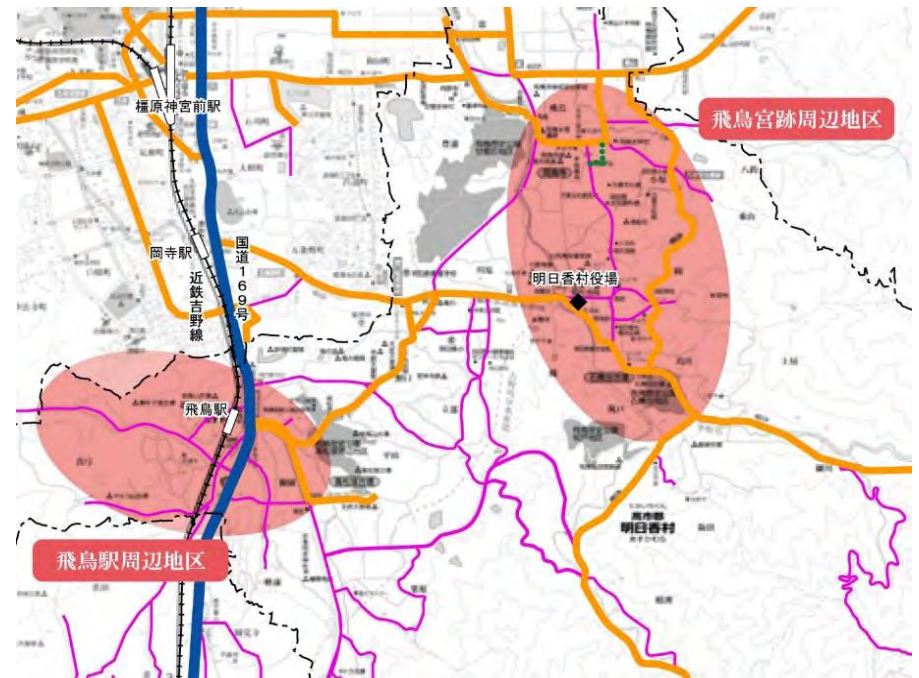
このような大字で受け継がれてきた文化財やその周辺環境は、大字住民の地域への誇りや愛着を育む拠り所となるものであることから、それらが失われることにより、益々人口の減少や若者の流出が進み、地域の活力を低下させる一因となっている。

よって、古代の遺跡に抱かれながら、この“あすか”の地で生活を続けてきたことは、他都市にない大きな特色であり、そのなかで育まれてきた歴史や文化、基幹産業などにも光を当て、遺跡等と関連付けながら、その魅力を多様化し、より一層の観光振興を図っていくことで地域の活性化を図ることが重要である。

そこで、ほぼ全域に文化財が眠り日々発掘調査が行われている村全体を博物館ととらえ、美しい景観、豊かな自然、安全でおいしい農産物、人々の多様な活動など村の魅力のすべてを活かして訪れる人をもてなす村づくりを目指す「まると博物館づくり」を推進するため、県と連携しながら明日香村のまちづくり基本構想を策定するものとする。

明日香村まちづくり基本構想は、明日香村が有する文化財や景観などの地域資源を最大限に活かし、それらの資源を一層、磨きあげることを通じて、各地区が魅力あふれる暮らしやすい地域へと発展していくことを目的として、基本的なまちづくりの考え方や今後の重点的な取組を示す道筋を示すものである。

この構想では、「飛鳥宮跡周辺地区」ならびに「飛鳥駅周辺地区」をモデル地区として、地区の課題を踏まえ、生き生きした地域を育み、展開していくことを目指す。



2. 明日香村の概要

(1) 村の上位計画

1) 第4次明日香村総合計画（平成22年～31年）

◆村の将来像

『古都の風格を育み、住む喜びと新たな魅力を創造する—明日香を「感じ」「知り」「守り」「育てる」むらづくり』

◆戦略的施策

村づくりのエンジンとなる施策の分野 ～ 世界に誇る「文化財」、明日香法や村民の努力により守られてきた「景観」、それらを支えてきた「農」、これらすべてを経済活動の活性化につなげることのできる「交流産業」～ を「戦略的施策」として位置づけ、これら「農」「文化財」「交流産業」「景観」の魅力を高め、『「明日香」を感じることができる、もてなしの村づくり』を進める、つまり「まるごと博物館構想」※を推進することで、交流人口・定住人口の増加と地域経済の活性化を目指す。

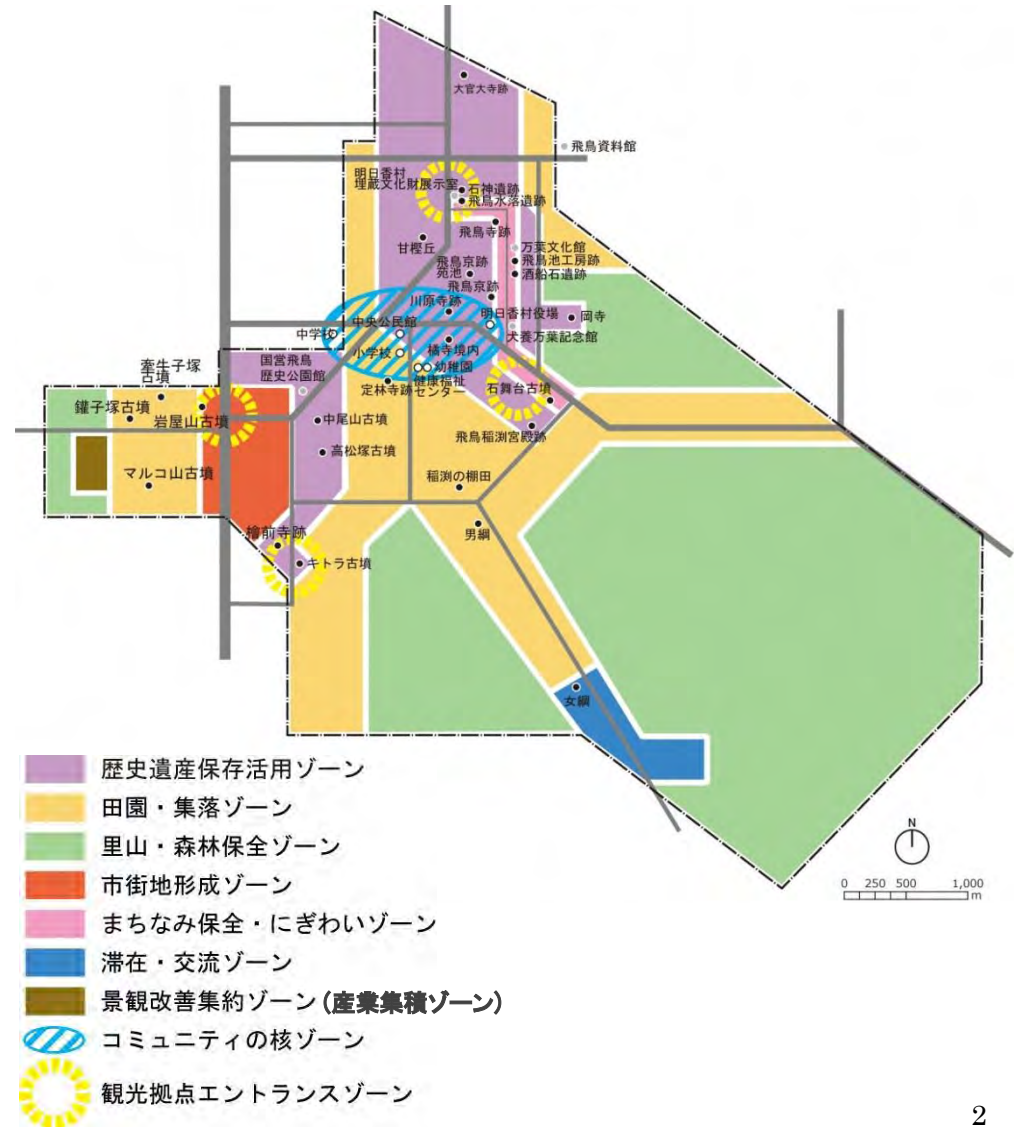
◆基本施策

安全・快適で生き活きとした暮らしをつくり、村づくりの主役である人を守り育て、活力ある産業・地域社会を形成し、住民が心から『住む喜びと誇りを感じられる村づくり』を進める。

※「まるごと博物館構想」

ほぼ全域に文化財が眠り日々発掘調査が行われている本村は、それだけでもう村全体が博物館といえるが、美しい景観、豊かな自然、安全でおいしい農産物、人々の多様な活動など村の魅力のすべてを活かして訪れる人をもてなす村づくりを目指す「まるごと博物館構想」を推進する。

◆全体の土地利用方針図



2. 明日香村の概要

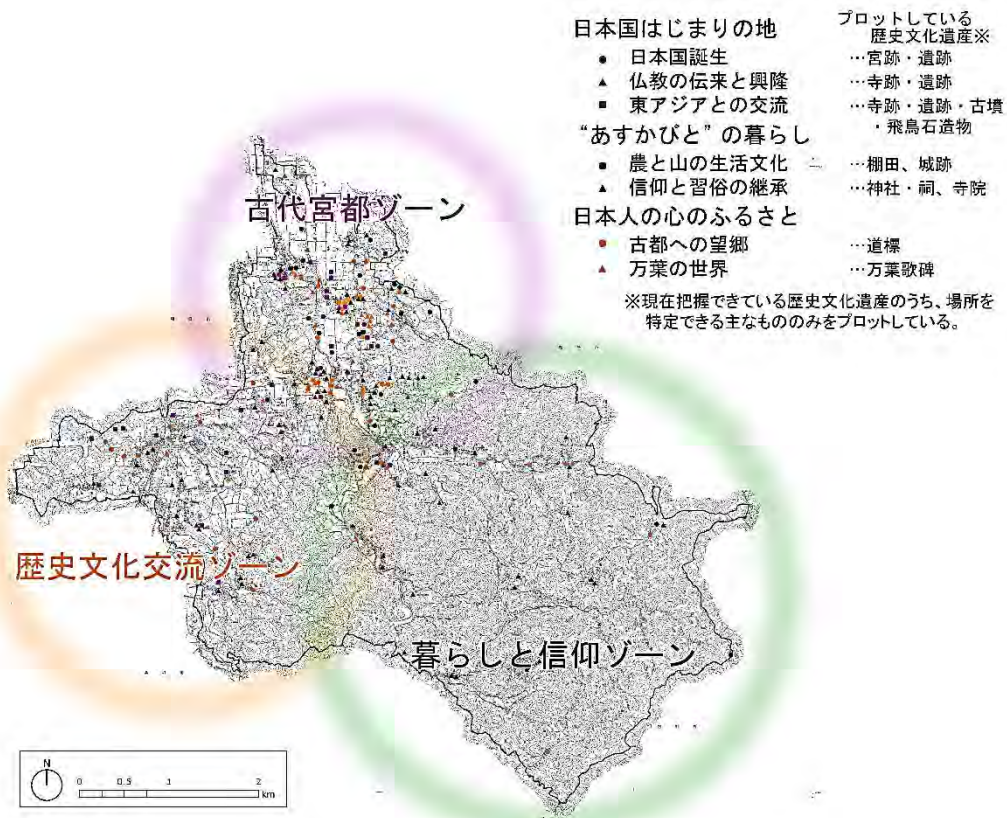
2) 明日香村歴史文化基本構想（平成26年度策定）

「明日香まるごと博物館づくり」の理念を具現化し、その推進を支援するとともに、飛鳥・藤原の包括的保存管理計画と連携を図り、世界遺産の登録に向けた取り組みを後押しするなど、歴史文化を活かしたむらづくりの各種取り組みを具体化する。

◆基本理念

「美し “あすか”」を学び、育み、活かす

◆歴史文化保存活用区域のゾーン区分



3) 第4次明日香村整備計画（平成22年度～31年度）

◆基本理念

6世紀末から7世紀末にかけての約100年の間、おおむね明日香村の区域内において都が営まれた。

また、この地で律令が初めて制定されるなど、明日香村は我が国の古代国家体制が形成された地であるとともに、中国や朝鮮半島など東アジア文化の影響を受け飛鳥文化が開花した地域である。

明日香の価値はまさにこの歴史そのものであるが、明日香を訪れた誰もがその価値を体感し回想することは出来ないのも事実であることから、明日香における歴史展示の推進を図ることが必要である。

また、歴史的文化遺産と周辺の環境が一体となった他に類例を見ない貴重な明日香の歴史的風土については、明日香村特別措置法等の規制により概ね良好に守られてきたが、個別に散見される問題への対処や、住民参画の推進とともに国民の理解協力と参加、また地域の自主的・自立的な取り組み等により、歴史的風土の維持・向上を図ることが必要である。

一方、人口減少に代表される地域活力の低下は、明日香村にとっての最大の課題である。

地域活力を向上させるためには、明日香の持つ価値である「歴史」及び「歴史的風土」をこれまで以上に活かした取り組みが必要である。

このため、歴史的風土を形成する重要な要素である「農」空間の維持・再生を図るとともに、歴史展示の推進により明日香の魅力発信等を行うなど、観光・交流振興の取り組みが求められる。

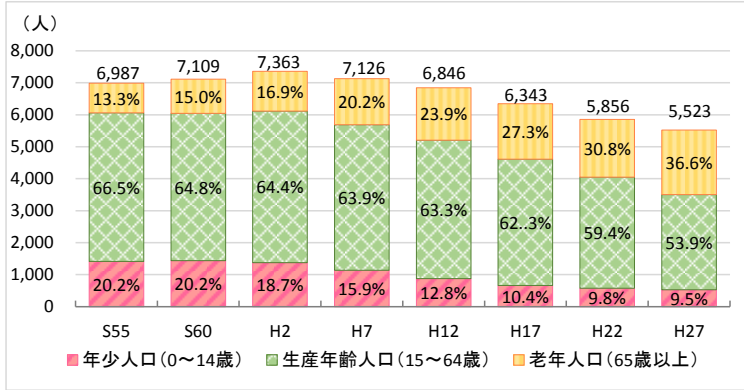
これらの取り組みにより、村民が住むよろこびを感じ、また村外の方々が住みたくなるような村づくりを行い、明日香村の地域活力向上を図る。

2. 明日香村の概要

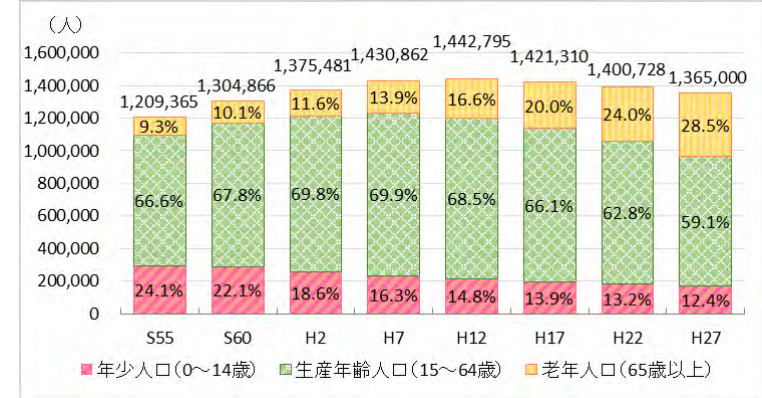
(2) 村の人口

- 明日香村では、60歳代の層の人口が最も多い。一方で、団塊ジュニア世代の人口が少ないのが特徴であり、また、年少人口も少ない。
- 村の総人口は、平成2年をピークに人口減少傾向。

- 奈良県全体と比較しても少子高齢化傾向が著しい。
- 高齢化が進み36.6%。(H27年国勢調査)
- 平成27年国勢調査では年少人口が急激に減少して9.5%。



明日香村の人口動態 (出典: 国勢調査)

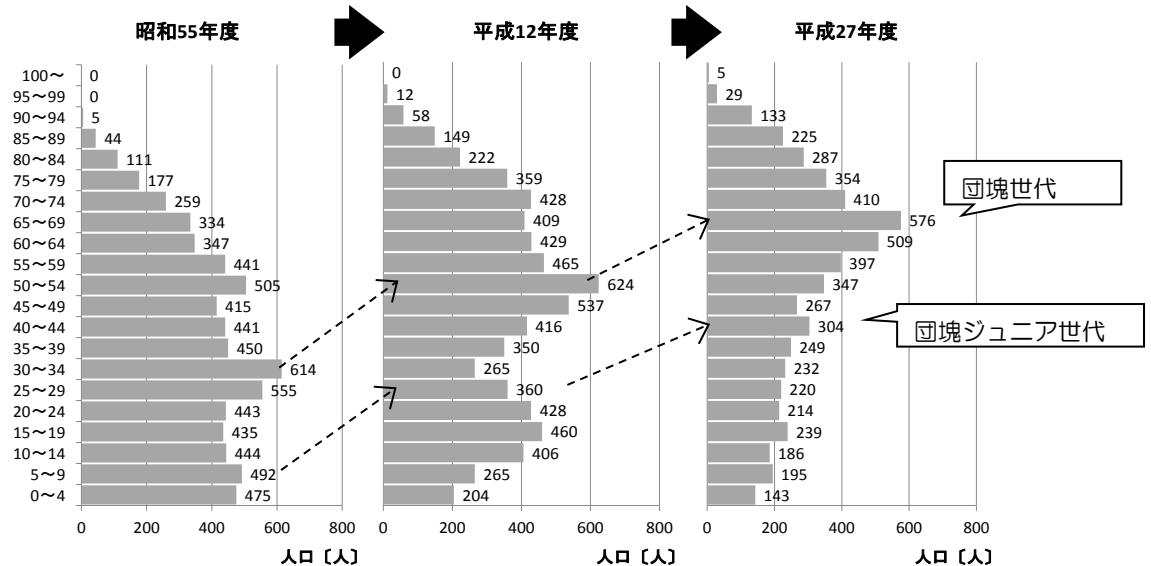


奈良県の人口動態 (出典: 国勢調査)



明日香村の将来人口の推移

(出典: 国立社会保障・人口問題研究所)



明日香村の年齢別人口の推移

(出典: 国勢調査)

2. 明日香村の概要

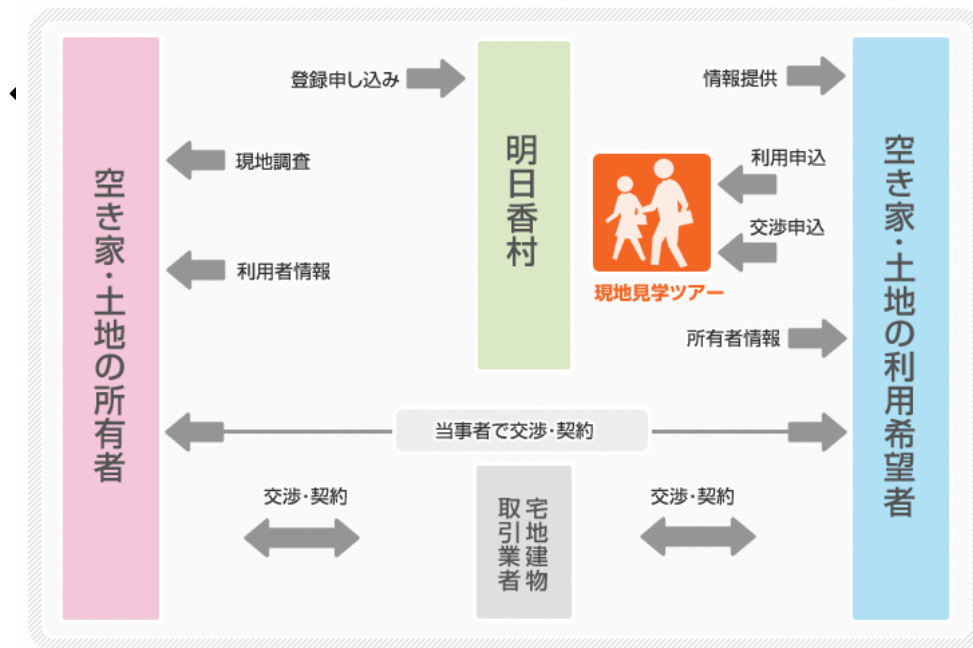
(3) 空き家の状況

明日香村内における空き家等の実態調査によると、外観調査で108軒の空き家が存在することが確認されている。

◆空き家等活用バンク制度の取組

明日香村では、空き家等活用バンク制度により、空き家活用に関する情報収集や啓発活動の推進、空き家改修等に対する支援を行っている。

また、人口誘導施策に関する情報として定住希望者への空き家等の紹介をはじめ、新規就農希望者には、農地・居住確保に関する情報を、店舗・宿泊施設等観光関連サービスビジネスの出店希望者には、店舗として利用可能な空き家や土地の紹介を行っている。



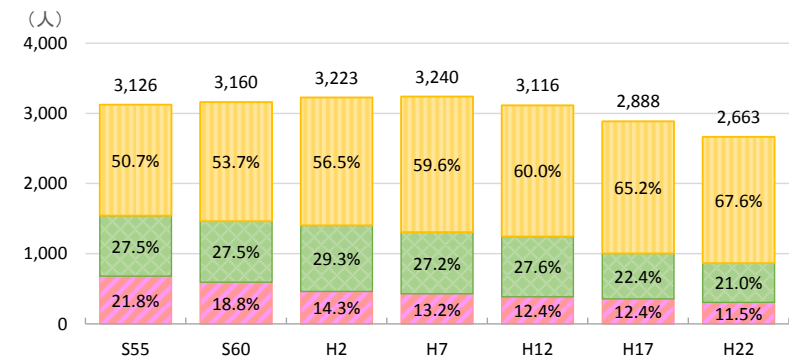
空き家等バンク制度の仕組み

(出典：明日香村資料)

(4) 産業動向

◆産業別就労者数

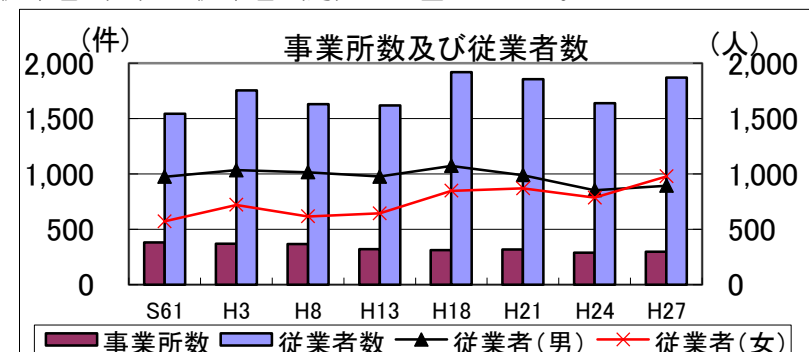
明日香村の産業別産業別就労者数を平成22年度国勢調査結果からみると、第3次産業就労者数が67.6%と最も多く、第2次産業就労者数は21.0%、第1次産業就労者数は11.5%となっており、人口減少や高齢化とともに就労者数全体も減少している。



産業別就労者数の推移 (出典：国勢調査)

◆事業所数及び従業者数

村内の事業所数は昭和61年からほぼ横ばいの状況が続いている。従業者数については、平成18年がピークとなっている。平成27年には従業者(女)が従業者(男)を上回っている。

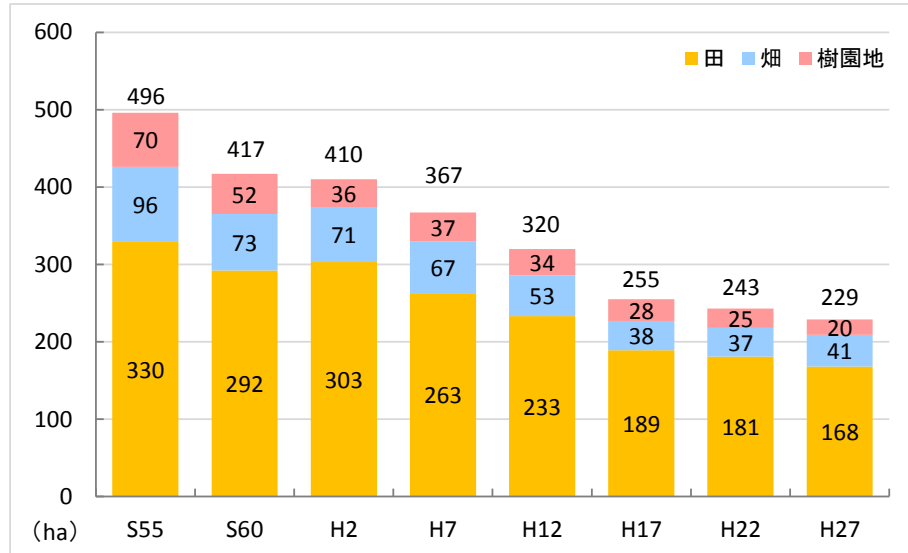


(出典：経済センサス)

2. 明日香村の概要

◆農業

山間に切り開かれた畑から谷間に続く等高線に沿って縞模様の造形美を造りだす棚田や、斜面に彩りを醸し出す果樹園、稲穂たなびく広がりのある水田が広がる。



農地面積の推移

(出典：農林業センサス)

水稲は、明日香村の主要作物であり、農業経営の基幹となっている。一方、都市近郊農地の有利性を活かしたイチゴ、トマト、軟弱野菜などの生産もみられる。

イチゴ栽培は、奈良県育成種「あすかるビー」が全面的に普及し、一部には高設栽培が導入され「いちご狩り農園」としてオープンし、週末になると県内外からの家族連れや団体客が訪れ、いちご狩りを楽しんでおり、村の観光産業のひとつとなっている。

◆農に関する取組

ア. 農林産物直売所

あすか夢販売所（平成 17 年（2005）3 月 31 日）、明日香の夢市・夢市茶屋（平成 18 年（2006）4 月 1 日）、あすか夢の楽市（平成 21 年（2009）12 月 16 日）が設置され、いずれも多くのお客で賑わい、順調に売上額を伸ばしている。特に、あすか夢販売所と明日香の夢市では、近隣市町村のリピーターが多く、観光客以外のニーズにも応えている。



あすか夢販売所

イ. 集落営農組織等

真弓地区では、真弓集落営農組合において安全・安心に配慮して栽培された野菜等を、訪問者が畑から直接収穫する形で販売する「はたけの八百屋さん」を実施している。購入希望者は、採れ頃の野菜をインターネットで確認することができ、現地ではスタッフが農地まで案内し、収穫方法の手ほどきを行っている。



はたけの八百屋さん

ウ. あすかオーナー制度

明日香村では農を通じた都市との共生を提案し、負担と喜びを共に分かち合う「あすかオーナー」を募集している。また、棚田オーナー制度については、稲渚地区において、NPO 法人明日香の未来を創る会が創設され、自立的な運営がされている。

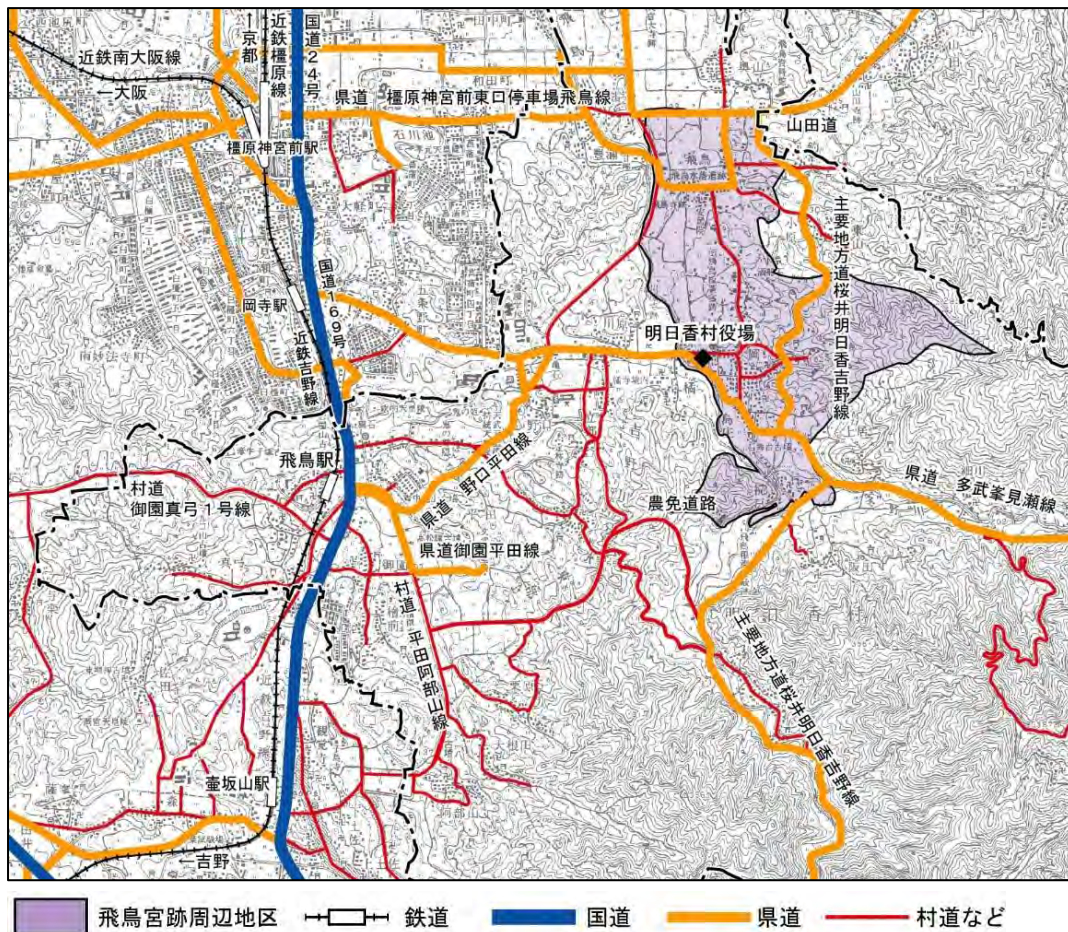


オーナー制度の活動風景

2. 明日香村の概要

(5) 交通

明日香村は、近鉄吉野線及び国道169号が村の西側を南北に通っており、これに県道、村道が繋がり道路網が形成されている



明日香村の交通体系

◆来訪手段

- 明日香村への村外からの来訪手段は、自家用車（約44%）が最も多く、次に鉄道を利用して「飛鳥駅で下車」（約38%）が続く。路線バスの利用者（約3%）は少ない。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
鉄道(飛鳥駅下車)	47.4%	55.6%	41.3%	33.3%	33.3%	35.0%	39.8%	38.0%
鉄道(岡寺駅下車)	0.0%	2.8%	3.3%	1.0%	2.7%	3.3%	2.0%	2.6%
路線バス(周遊バス)	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	1.3%	2.5%	9.2%	2.8%
観光バス・マイクロバス	26.3%	0.0%	4.3%	4.8%	5.3%	3.7%	7.1%	4.9%
自家用車(マイカー)	26.3%	33.3%	38.0%	47.6%	48.7%	51.9%	32.7%	44.3%
バイク	0.0%	2.8%	5.4%	0.0%	1.3%	0.4%	0.0%	1.3%
その他	0.0%	5.6%	7.6%	8.6%	7.3%	3.3%	9.2%	6.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(出典：2013年明日香村観光実態調査)

◆村内周遊手段

- 村内の周遊は、徒歩（約51%）が最も多く、レンタサイクル利用（約21%）が続く。自家用車による周遊は約17%に留まる。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
周遊バス(かめバス)	0.0%	4.8%	1.8%	6.6%	2.8%	5.3%	14.2%	5.4%
観光バス・マイクロバス	0.0%	0.0%	0.9%	1.6%	1.7%	1.8%	3.5%	1.7%
自家用車(マイカー)	10.0%	4.8%	15.3%	17.2%	20.3%	19.9%	15.0%	16.8%
バイク	0.0%	2.4%	2.7%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.7%
レンタサイクル	30.0%	36.1%	36.0%	23.8%	18.1%	14.6%	6.2%	20.7%
徒歩	60.0%	49.4%	39.6%	46.7%	52.0%	54.1%	59.3%	51.2%
その他	0.0%	2.4%	3.6%	4.1%	4.0%	4.3%	1.8%	3.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

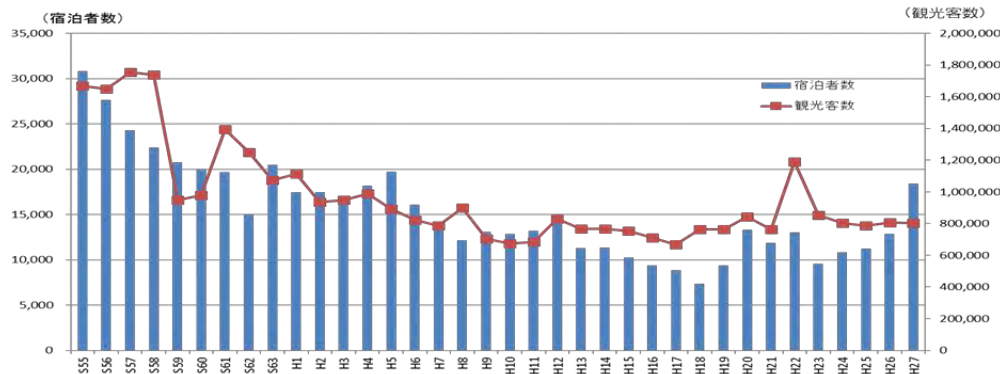
(出典：2013年明日香村観光実態調査)

2. 明日香村の概要

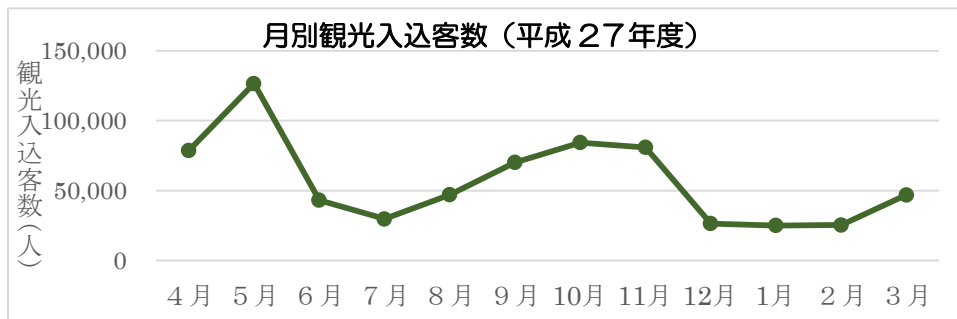
(6) 観光動向

◆入り込み客数

- 観光客数は昭和 57 年をピークに減少し、平成 26 年はピーク時の半分以下になっている。平成 22 年は平城遷都 1300 年事業(H22.4.24~11.7)で一時的に観光客は増えている。



- 村内宿泊者は、観光来訪者の約 1.6%で大半が日帰り観光となっている。
- 近年の宿泊者の増加は民家ステイ(教育旅行)の影響が大きい。
- 年間の観光動向をみると、春(4月~5月)および秋(9月~11月)に集中しており、特に5月が1年のピークとなっている。



※村観光施設(石舞台古墳、高松塚壁画館、飛鳥資料館、国営飛鳥歴史公園館、県立万葉文化館、亀形石造物、犬養万葉記念館、橘寺)における月別観光入込客数総計 (出典：明日香村資料)

◆取組

●飛鳥民家ステイ

- 明日香村では、体験学習のため学生を受け入れる「飛鳥民家ステイ」を行っている。農業や郷土料理作り体験などのほか、史跡めぐりや歴史探検ガイドツアーなど、飛鳥地域ならではのプログラムも充実している。
- 台湾やマレーシアなど海外からの受入れも積極的に行っており、平成27年度の民家ステイ利用者泊数は、4,250泊で、その内2,348泊は外国人学生である。



教育旅行の取組み

◆観光客の明日香村に対するイメージ

- 観光客が明日香村に持つイメージは、アンケート調査結果からは「古代史」が最も多く、その古代を象徴する「古墳」が続く。
- 基幹産業である農業を基盤とした「農村風景」や「緑豊かな景観」についても明日香村のイメージとして受け取られている。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
古代史	34.4%	30.1%	33.3%	33.5%	34.3%	34.2%	32.1%	33.2%
寺社	15.6%	8.8%	8.2%	9.3%	4.2%	6.2%	5.4%	6.9%
古墳	34.4%	39.7%	36.1%	33.0%	33.3%	29.0%	25.6%	31.9%
農村風景	6.3%	8.1%	6.6%	10.2%	12.3%	12.6%	16.1%	11.2%
緑豊かな景観	6.3%	11.0%	13.1%	11.2%	12.9%	14.8%	14.9%	13.3%
その他	3.1%	2.2%	2.7%	2.8%	2.9%	3.3%	6.0%	3.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(出典：2013年明日香村観光実態調査)

2. 明日香村の概要

(7) 住民意識

ア. 明日香村の住みごころ

「明日香村の住みごころ」について聞いたところ、「とても暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせると、全体では、75%以上になっている。

年代別で最も高かったのは 30～34 歳代で、「とても暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせて、86.9%、次いで、40～44 歳代で 84.7%、60～64 歳代で 83.2%の結果であった。

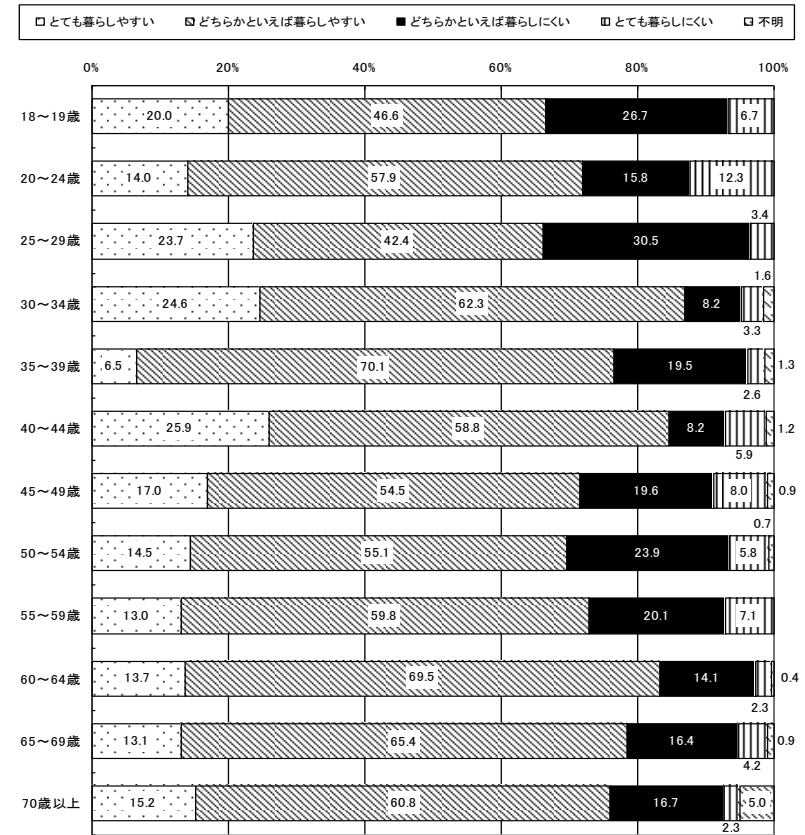
イ. 明日香村の誇り

明日香村のどのようなところに誇りを感じるか、を聞いたところ、「わが国で初めて律令国家が形成された時代の政治の中心」が 37.4%で最も多く、次いで「万葉集に謳われた由緒ある風景」が、28.9%の順であった。

ウ. 明日香村への居住意向

「明日香村に住み続けたいか」について聞いたところ、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」を合わせると、全体では80%以上になっている。

年代別で最も高かったのは 40～44 歳代と 60～64 歳代で、「住み続けたい」、「どちらかというとも住み続けたい」を合わせて、ともに 86.2%、次いで、30～34 歳代で 82.7%、などすべての年代で定住意向は高い結果であった。



年齢別「住みごころ」に対する意向

出典：平成 25 年明日香村住民アンケート調査

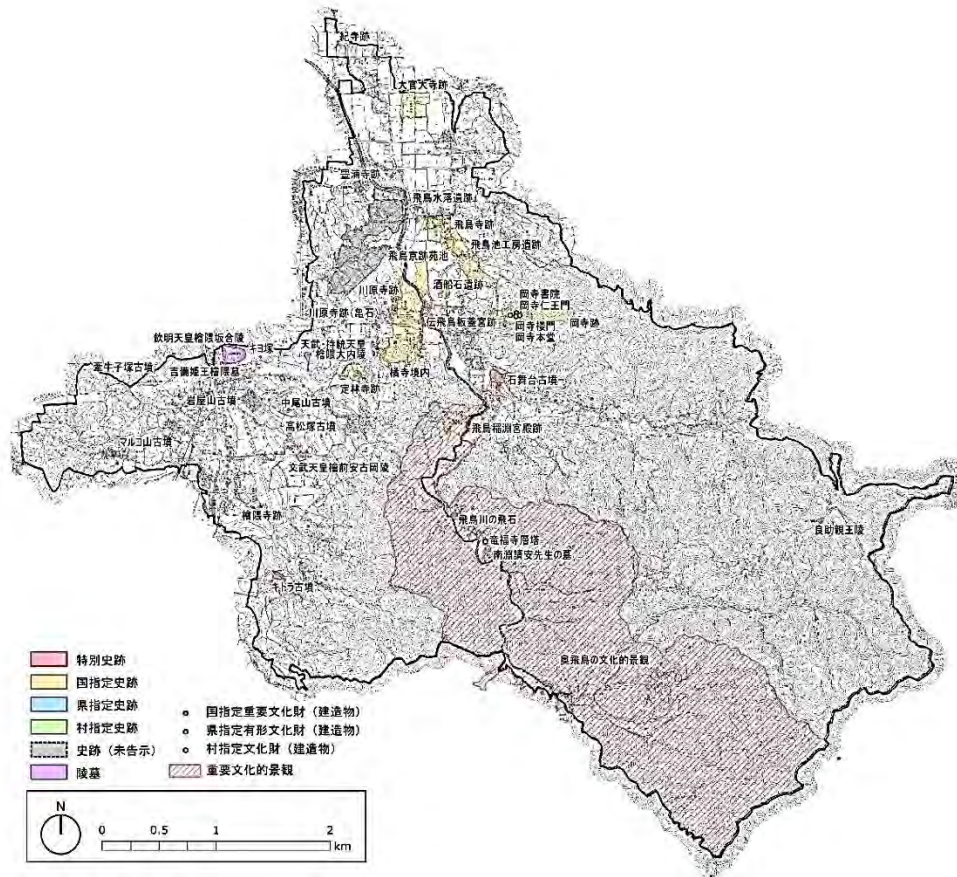
エ. 規制について

「規制を感じる」と答えた方に、どういう時に規制を感じるかを聞いたところ、「住宅改修時の規制が最も多く 62.6%、ついで「許認可手続きが面倒」が、48.5%、「建築や改修費用が高い」が 41.4%の結果であった。

2. 明日香村の概要

(8) 地域資源

明日香村の地域資源としては、石舞台古墳など国指定特別史跡や史跡、奥飛鳥の重要な文化的景観など古代史を語る数多くの文化財ならびに田園景観を中心とした景観資源があげられる。



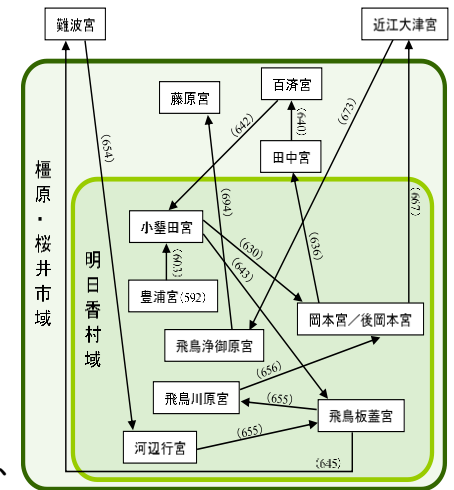
明日香村の主な史跡等の分布

出典：明日香村歴史文化基本構想

◆文化財

● 宮殿と関連施設

推古天皇が豊浦宮で即位したことで、飛鳥時代が幕を明ける。推古天皇は推古 11 年（603）に小墾田宮に新宮殿を建設して遷した。次の舒明天皇は飛鳥寺南方の飛鳥岡本宮に、皇極天皇は、飛鳥板蓋宮へと宮を遷した。この飛鳥板蓋宮は乙巳の変の舞台となり、孝徳・天智朝には一時的に宮殿は飛鳥を離れることもあった。しかし、斉明天皇の後飛鳥岡本宮、天武天皇の飛鳥浄御原宮をはじめ、飛鳥時代の大半を通じて、宮は明日香村を中心とした飛鳥地域において営まれた。



宮の変遷

これらの宮域の中には、苑池や各種官衙がある。特に、内郭の北西に隣接して、広大な苑池が広がっており、噴水石造物や中島などがみられた。また島庄遺跡では一辺約 40m の方形池が見られる。



飛鳥宮跡

官衙と考えられる遺跡としては、飛鳥寺の北西には漏刻施設である水落遺跡や、噴水石造物をもつ迎賓館の石神遺跡があり、飛鳥寺の西に位置する飛鳥寺西方遺跡には、『日本書紀』において「飛鳥寺西槻」と記される広場との関連が指摘される石敷を施した空間が広がる。また、その北方に隣接してある飛鳥池工房遺跡は、富本銭をはじめ金・銀・銅・鉄・ガラス・玉・瓦など各種製品を作っていた飛鳥時代最大の総合工房である。

2. 明日香村の概要

○ 終末期古墳

飛鳥地域は、特色ある古墳が多く築かれた地域でもある。この地域の群集墳としては飛鳥南東の細川谷古墳群がある。横穴式石室を主体とする総数 200 基の古墳群である。

この中には打上古墳や上5号墳、組合式石棺をもった堂の前塚古墳などが注目される。また、この古墳群の西端にあたる場所には、巨石を用いた一辺 52mの方墳である石舞台古墳や都塚古墳などが位置する。

これらは6世紀後半から7世紀初頭にかけての終末期前半の古墳であるが、7世紀中頃から8世紀初頭にかけての終末期後半の古墳は飛鳥南西地域に集中する。

それは天武持統天皇陵（野口王墓）を北東の隅として、その南西に広がる。天武持統陵のある谷は、欽明天皇陵（梅山古墳）・カナヅカ古墳・鬼の俎雪隠古墳と東西に並び、飛鳥の皇統譜との位置づけもなされている。

梅山古墳は明日香村内では唯一の前方後円墳であるが、東西尾根の南側に築かれており、終末期古墳の立地を色濃く反映している。つまり、大和最後の前方後円墳はまさに終末期古墳と一部重なるのである。

カナヅカ古墳は岩屋山式の横穴式石室をもつと考えられ、一辺 60mの段上にある。鬼の俎雪隠古墳は石英閃緑岩を割り抜いた石槨で、東側に隣接して同2号墳があったとされる。

野口王墓は八角形の墳形をもち、石室内に夾紵棺と骨蔵器があったとされ、現在比定されている天皇陵では、その比定の正しさが唯一指摘されているもの



石舞台古墳

である。

この南方には同じ八角形墳である中尾山古墳がある。中尾山古墳の南の尾根の南斜面には、円墳で凝灰岩切石を組み合わせた横口式石槨をもち、内部に四神・人物像などの壁画の描かれた高松塚古墳がある。さらに南方 1.2 kmには同構造で壁画のあるキトラ古墳が位置している。

一方、高取川の左岸では凝灰岩の割抜き式石槨をもつ八角墳である牽牛子塚古墳があり、夾紵棺や七宝亀甲形座金具や玉類が出土するとともに、古墳南東側に隣接して越塚御門古墳が存在するなど、斉明陵の有力な候補となっている。



高松塚古墳壁画 西壁女子群像

高松塚古墳・キトラ古墳と同構造の石室をもつマルコ山古墳では、壁画は描かれていないが、墳形は多角形墳をしている。マルコ山の西方には結晶片岩を用いた石室を有するカツマヤマ古墳や、東方にはテラノマエ古墳があり、両古墳の石室中央には棺台が備え付けられている。

さらに南方には凝灰岩の切石を家型に組み上げた石室をもち、八角形墳である東明神古墳がある。

2. 明日香村の概要

○ 飛鳥の石造物

飛鳥の東方丘陵上には謎の石造物と呼ばれる酒船石があり、これを取り巻くように石垣が巡っている。この北側の谷底には亀形石槽の導水施設があり、天皇祭祀の場とする。飛鳥京跡苑池から庭園の噴水施設の石造物群が出土、石神遺跡では迎賓館の噴水施設である須弥山石・石人像が出土している。その他にも猿石など多くの石造物が存在する。これらは斉明朝の一時期に製作されたと推定されているが、その性格については明確でないものも多い。



亀石

○ 宗教建造物

明日香村内には、最古の寺とされる飛鳥寺をはじめ、岡寺や川原寺および橘寺などの寺院、飛鳥座神社などの神社の建造物が田園地域のなかで保全されると共に、岡寺の初午会などの伝統的な行事が継承されている。



飛鳥寺



川原寺



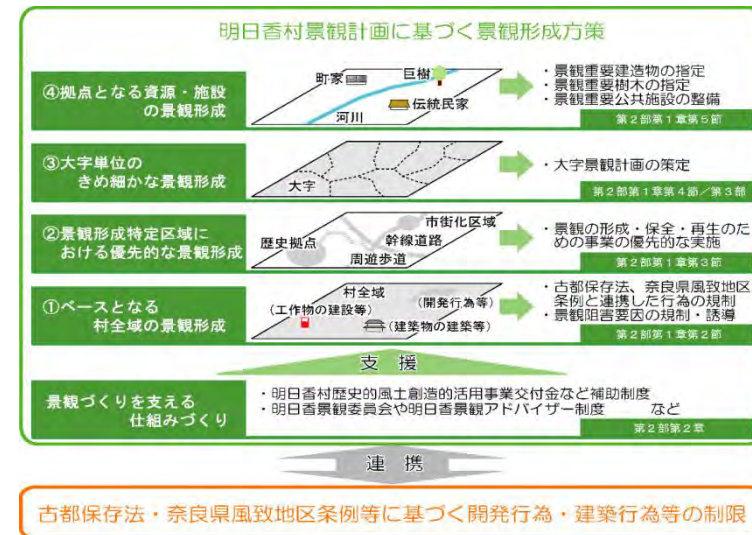
岡寺

◆ 景観

古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法や風致地区条例、景観条例などにより、国民共有の財産である明日香村の歴史的風土の保存に取り組んできた。このことにより、甘樫丘などの歴史的な視点場からの眺望景観、史跡などの歴史的要素が周辺と調和した景観、農地・集落・丘陵・山地が調和した景観、棚田里山などのふるさと景観が維持されている。



明日香村の景観



明日香村の良好な景観の形成・歴史的風土の保存

明日香村景観形成方策

出典：明日香村景観計画

3. 飛鳥宮跡周辺地区の位置づけ

②明日香村歴史文化基本構想

①古代宮都ゾーン

【位置づけ】

飛鳥に広がる平地部の「真神原」と呼ばれる地は、飛鳥寺の建立や飛鳥宮の造営をはじめ、飛鳥時代の寺院や宮が営々として築かれた飛鳥時代の中心となる区域である。現在も地上・地下の各所に日本国誕生の痕跡を物語る多くの遺跡が残り、遺跡とともにある暮らしの長い歴史を感じることができるとともに、整備された史跡や様々なイベント等を通じて、往時の風景を思い起こすことができる。

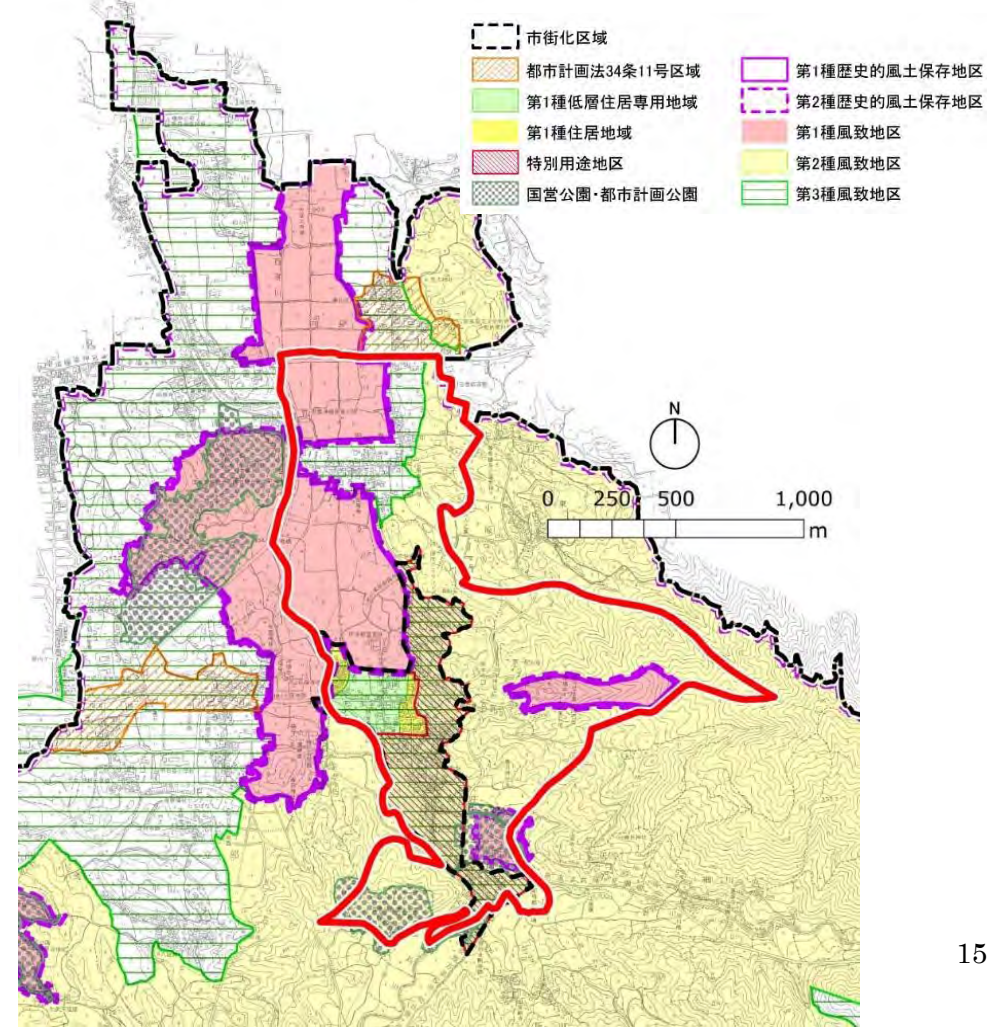
【取組方針】

古代、飛鳥の地に営まれた宮都の繁栄を物語る遺跡群と、それらを取り巻く各時代を通じた人々の活動が創り出してきた歴史文化の特徴を活かし、遺跡と人々とが共生する「美し“あすか”」の基盤となる古都・明日香の魅力づくりの拠点ゾーンとして位置づけ、古代からの歴史文化を体感できる保存・整備を進めるなど、「日本国はじまりの地」に係る関連文化財群の保存・活用を重点的に推進する。

(2) 地区の立地特性

地区の中心は、第1種歴史的風土保存地区に指定されており、明日香宮跡をはじめとした重要な文化財が集積している村内でも重要な地区である。

一方、地区の南側は市街化区域に指定され、特別用途地区が設定されている。



4. 飛鳥宮跡周辺地区の現状と課題

(1) 地域資源の現状と課題

課題1：価値ある文化資源を地域振興のために十分に活用できていない

- 飛鳥宮跡周辺地区は、飛鳥時代の重要な歴史資源が集中する地区であるが、多くの遺跡が地下に眠っている状態であり、目に見える歴史展示となっていない。
- 飛鳥宮跡を核とした「歴史が体感できるストーリー性のある歴史展示」が求められている。

- 木製の電柱が約 340 本存在するなどから、屋外展示や情報発信に必要とされる光通信網を整備することができない。

指定種別	種別		名称	指定年月日	管理者 (管理団体)	所在 大字	備考 (寄託 施設・面積等)
重文	有形文化財	建造物	岡寺仁王門	昭 30. 6. 22	岡寺	岡	岡寺
重文	有形文化財	建造物	岡寺書院	昭 61. 1. 22	岡寺	岡	岡寺
重文	有形文化財	美工 (彫刻)	銅造釈迦如来坐像	昭 15. 10. 14	飛鳥寺	飛鳥	飛鳥寺
重文	有形文化財	美工 (彫刻)	塑造如意輪観音坐像	明 34. 8. 2	岡寺	岡	岡寺
特史	記念物	史跡	石舞台古墳	(史)昭 10. 12. 24 (特史)昭 27. 3. 29	奈良県	島庄 祝戸	12, 317 m ²
史跡	記念物	史跡	酒船石遺跡	昭 2. 4. 8 / 平 16. 9. 30 名称変更・追加	明日香村	岡	31, 464 m ²
史跡	記念物	史跡	飛鳥寺跡	昭 41. 4. 21	明日香村	飛鳥	46, 184 m ²
史跡	記念物	史跡	伝飛鳥板蓋宮跡	昭 47. 4. 10 / 昭 58. 1. 12 追加 / 昭 58. 5. 19 追加 / 平 4. 4. 21 追加	(奈良県)	岡	9, 308 m ²
史跡	記念物	史跡	飛鳥水落遺跡	昭 51. 2. 20 / 昭 57. 3. 23 追加	(明日香村)	飛鳥	1, 219 m ²
史跡	記念物	史跡	飛鳥池工房遺跡	平 13. 8. 13	(奈良県)	飛鳥	19, 981 m ²
史跡	記念物	史跡	岡寺跡	平 17. 8. 29		岡	82, 865 m ²
史跡 名勝	記念物	史跡 名勝	飛鳥京跡苑池	平 15. 8. 27	(奈良県)	岡	27, 413 m ²
県 有文	有形文化財	建造物	岡寺 楼門	昭 47. 3. 8	岡寺	岡	岡寺
県 有文	有形文化財	建造物	岡寺 本堂	昭 62. 3. 10	岡寺	岡	岡寺



- 特別史跡
- 国指定史跡
- 史跡 (未告示)
- 陵墓
- 国指定重要文化財 (建造物)
- 県指定有形文化財 (建造物)
- 村指定文化財 (建造物)

文化財の分布状況

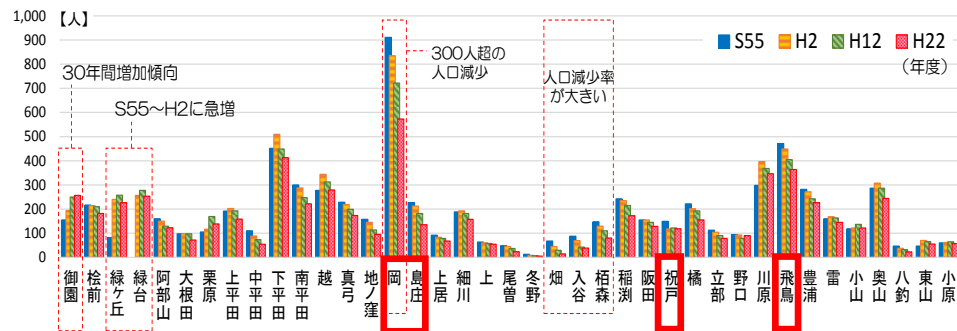
出典：明日香村歴史文化基本構想

4. 飛鳥宮跡周辺地区の現状と課題

(2) 空き家の現状と課題

課題2：人口減少により増加する空き家の活用取組の拡充が必要

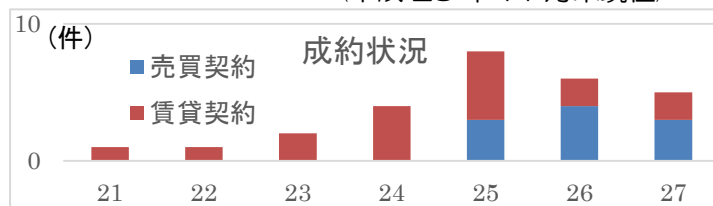
- ・村全体の将来人口も益々減少すると推計されている中でも、当地区は人口減少が著しい地域を含んでおり、今後さらに空き家の増加が危惧される。
- ・空き家の増加は、景観の悪化、まちの安全性に対する懸念の増大に繋がる。
- ・村では、特別用途地区の設定により観光関連施設の立地を可能とするとともに、空き家バンク制度を創設し、空き家の活用支援を行っている。空き家利用の成果も上がっており、物件登録数に対する利用希望登録者数が非常に多いことから、空き家の有効活用を図ることが可能であると思われる。



大字別人口の推移 (出典：明日香村資料)

空き家物件登録数	14件 (内 土地2件)
利用希望登録者数	239人

(平成28年11月末現在)



空き家バンク制度の成約状況の推移

出典：明日香村資料

(3) 景観の現状と課題

課題3：歴史的風土の継続した保全活動の継続が必要

- ・歴史的風土の維持向上を目指して岡地区の一部では無電柱化整備が完了したが、引き続き、本地区の無電柱化の推進が必要。
- ・地区内では、企業や景観ボランティア団体による景観保全活動が行われている。また、古都法により買入地も含め飛鳥宮跡の田園風景を村民により維持管理活動が行われているが、飛鳥宮跡に接する万葉集に詠われた飛鳥川の景観に配慮した維持管理や年々増加する古都法による買入地の景観保全など、担い手の高齢化に対応した良好な景観保全活動が必要。



景観を阻害する電柱・電線類



万葉集に詠われた飛鳥川の維持管理



企業ボランティアによる活動

4. 飛鳥宮跡周辺地区の現状と課題

(4) 周遊およびアクセス条件の現状と課題

課題4：地区へのアクセス性向上と地区内の周遊性が十分ではない

- 飛鳥宮跡周辺地区へのアクセス道路において、狭隘区間（石舞台古墳周辺等）があり、大型バスの交通支障や歩行者等との安全面が課題となっている。
- 飛鳥宮跡周辺地区の玄関口として、水落遺跡周辺、奈良県立万葉文化館、石舞台古墳が想定されるが、駐車場及び観光案内の拠点としての機能が充実していない。
- 飛鳥京中心部の宮跡整備と併せ、宮跡及び地区内への周遊を高めるため、観光客を誘導する仕組みが必要。



石舞台古墳周辺の狭隘区間

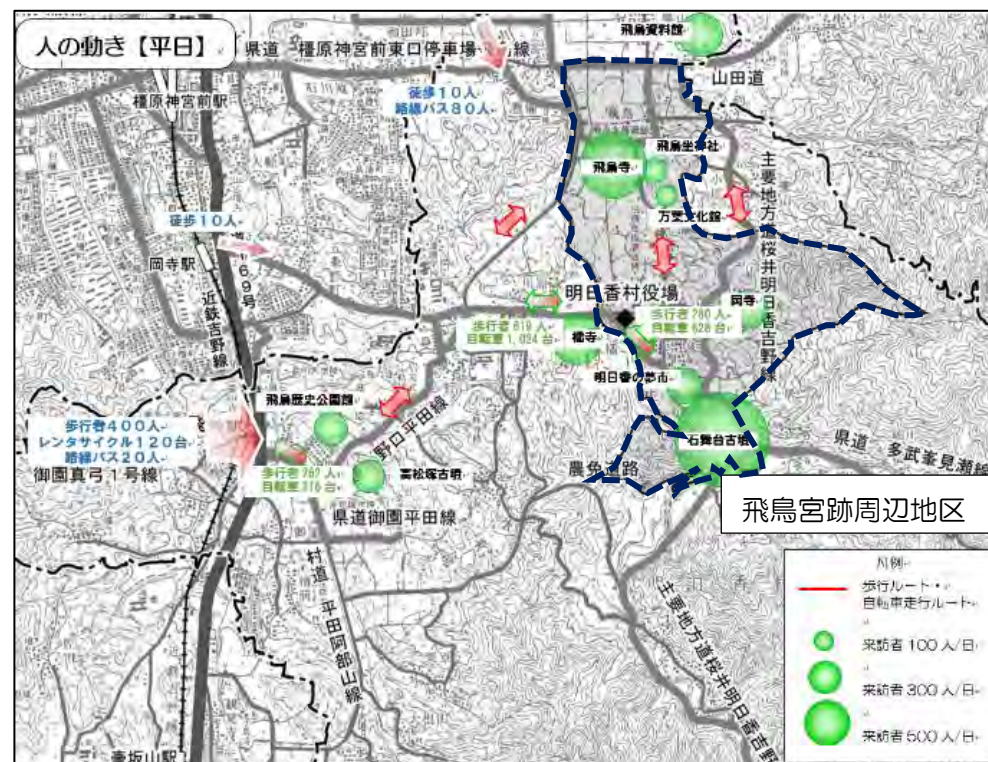


水落遺跡周辺の駐車場



地区への主なルートと駐車場の位置

出典：明日香村資料



来訪者数と主な立ち寄りポイント

出典：明日香村資料

4. 飛鳥宮跡周辺地区の現状と課題

(5) 特産品の開発の現状と課題

課題5：明日香の特長を活かした製品の不足

- 明日香村内では、棚田状の農地など狭い農地が多いなかで、米及びイチゴやトマト、キュウリなど少量多品目の農作物が生産されている。農地を守ることが景観保全に繋がっている。
- 村には加工グループが多く存在し、商品開発を行っている。
- 明日香の夢市及び明日香夢の旬菜館に加工施設があるなど地元産品を活用した特産品の開発が行われているが、明日香への訪問者が継続して購入する状況にはなっていない。



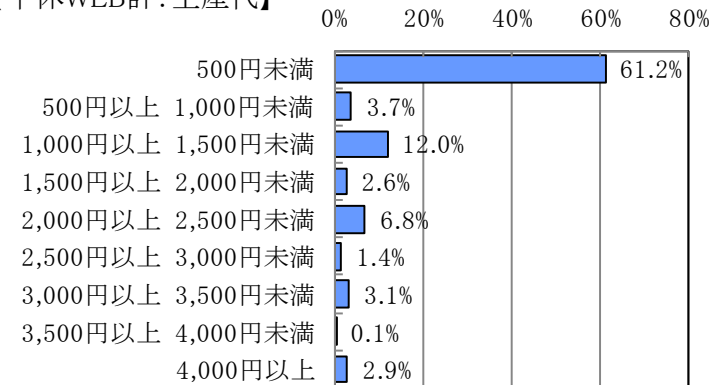
明日香夢の旬菜館



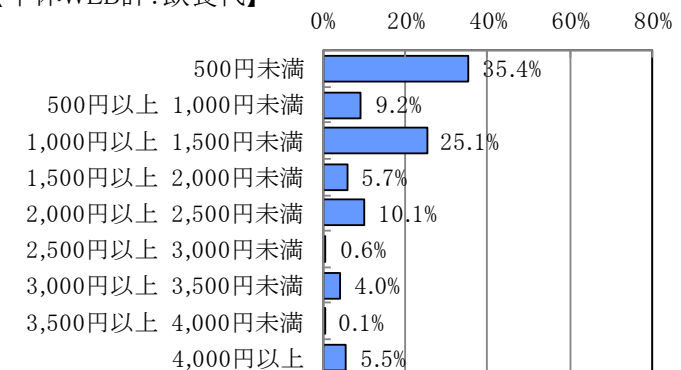
カタログ販売の取組み

- 明日香村内における観光消費額をみてみると、土産代は500円未満が約61%と大半を締め、飲食代についても500円未満が最も多く約35%となっている。
- 特産品などの開発により、観光消費額をあげることが喫緊の課題である。

【平休WEB計：土産代】



【平休WEB計：飲食代】



明日香村における観光消費額
出典：2013年明日香村観光実態調査

5. 地区の現状と課題を踏まえた飛鳥宮跡周辺地区のまちづくり基本方針

まちづくりのテーマ

～飛鳥宮跡を核とした歴史を体感できるまちづくり～

まちづくりの目標

◆古都の風格を育み、新たな魅力を創造するまちづくり

国家形成の地・飛鳥の都から続く明日香の風格を村民と協働して育み、歴史文化資産を磨き、輝かせることによって、新たな魅力づくりにつなげる。

◆歴史文化が体感できるもてなしのまちづくり

国内外からの来訪者が、歴史文化を見て、触れるとともに、特産品などを味わうことができる「もてなし」産業による働く場の確保、体制をつくりだす。

◆住む喜びと誇りを感じられるまちづくり

生活環境の快適性、利便性を感じられる基盤整備を充実させる。

◆歴史的風土の維持・向上を目指す景観まちづくり

日本のこころのふるさと・明日香の核心部の景観保全と景観形成を進める。

地区の現状と課題

<課題1> 価値ある歴史文化資源を地域振興のために十分に活用できていない

<課題2> 人口減少により増加する空き家の活用取組の拡充が必要

<課題3> 歴史的風土の保全活動の継続が必要

<課題4> 飛鳥宮跡周辺地区へのアクセス性ならびに地区内の周遊性が十分ではない

<課題5> 明日香の特長を活かした産品が不足している

まちづくりの基本方針

方針1：地域資源の活用

方針2：空き家の有効活用

方針3：景観保全活動の維持・発展

方針4：アクセス性ならびに地区内周遊性の向上

方針5：特産品の開発

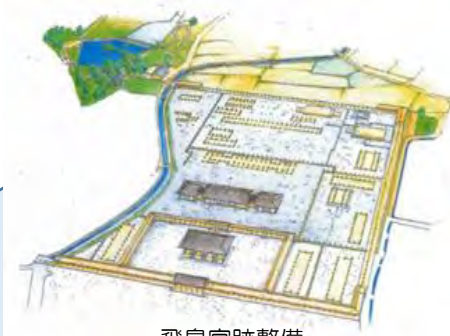
6. 飛鳥宮跡周辺地区まちづくりイメージ

■空き家の有効活用

- ◆空き家を活用した創業支援
- ◆空き家の利用促進



空き家活用のイメージ



飛鳥宮跡整備

■景観保全活動の維持・発展

- ◆電線類地中化整備
- ◆古都買入地の管理
- ◆河川景観の維持



電線類地中化の整備・延伸



古都買入れ地の管理

■地域資源の活用

- 飛鳥宮跡整備
- CG等による復元
- 情報通信網整備
- 役場庁舎の移設

■特産品の開発

- ◆地元産品の販売促進
- ◆加工製品の開発促進



地元産品販売場所の充実



飛鳥ブランドの開発促進



飛鳥宮跡 CG 復元

■アクセス性・周遊性向上

- ◆狭隘区間の整備
- ◆観光拠点機能の充実
- ◆周遊を誘導する仕組みづくり
- ◆周遊を誘発する情報発信



周遊を誘導する整備



狭隘区間の整備

7. 飛鳥宮跡周辺地区まちづくりでおこなう事業(案)

■地域資源の活用

- ◆飛鳥宮跡整備
 - ・国指定史跡飛鳥宮跡の整備
- ◆情報通信網整備
 - ・光通信網整備の支障となっている木柱の鋼管柱への建替
 - ・観光情報や歴史展示情報などを取得できる屋外 Wi-fi 等の整備
- ◆CG等による復元
 - ・飛鳥京のCG等による復元
 - ・CG等による歴史展示
- ◆役場庁舎の移設
 - ・飛鳥宮跡整備の周辺環境として役場敷地の活用検討

■アクセス性・周遊性向上

- ◆狭隘区間の整備
 - ・県道多武峰見瀬線（島庄工区等）の狭隘区間解消
- ◆観光拠点機能の充実
 - ・石舞台古墳周辺、水落遺跡周辺等に観光拠点としての機能を整備
- ◆周遊を誘導する仕組みづくり
 - ・特別用途地区の設定や空き家バンク制度の支援による空き家を活用した商業施設の誘導
 - ・チャレンジショップ設置による村内での商業活動誘致支援
- ◆周遊を誘発する情報発信
 - ・県内における宮遷都という広域的周遊（平城宮跡⇔藤原宮跡⇔飛鳥宮跡）

■空き家の有効活用

- ◆空き家を活用した創業支援
 - ・空き家の商業利用に対するリフォームや許認可等に係る支援
- ◆空き家の利用促進
 - ・空き家バンク制度による登録や仲介、動産整理やリフォーム等に係る支援

■景観保全活動の維持・発展

- ◆電線類地中化整備
 - ・村道飛鳥島庄線、村道岡戎線の電線類地中化
- ◆古都買入地の管理
 - ・適切な維持管理と効率的な活用検討
- ◆河川景観の維持
 - ・飛鳥川の浚渫や景観に配慮した護岸等整備

■特産品の開発

- ◆地元産品の販売促進
 - ・地元産品を周辺施設や村外でも手に入れることのできる販路の拡大
- ◆加工製品の開発促進
 - ・旬菜館などを活用した村内農産物等を活用した加工品開発支援

8. 飛鳥宮跡周辺地区まちづくり構想図

